

報第4号

球磨川くんだり株式会社の経営状況について

球磨川くんだり株式会社の経営の状況を説明する書類（第57期決算報告書及び第58期事業計画書）を別紙のとおり報告する。

令和元年6月4日提出

人吉市長 松岡 隼人

第57期 決算報告書
第58期 事業計画書

球磨川くんだり株式会社

人吉市下新町333-1
代表取締役 瀬崎 公介

第 5 7 期

決 算 報 告 書

自 平成 3 0 年 3 月 1 日
至 平成 3 1 年 2 月 2 8 日

第57期 事業報告書

自 平成30年3月 1日
至 平成31年2月28日

事業概況

当社第57期の決算を行いましたので、事業の概況と経過をご報告申し上げます。

当期の売上高は、87,624千円（対前年73.8%）となり、前期と比較しますと31,028千円の減少となりました。売上高減少の主な要因は、新規顧客獲得に向けた営業活動及び潜在顧客獲得に向けた情報発信の不足、船頭による顧客満足向上策の取組不足等により、乗船客数が6,397人減少（前期：30,778人、当期：24,381人）し、川下り売上高が18,603千円減少したことによるものであり、そのほか、平成30年5月にレストランが閉店したことによるものです。

一方で、売上原価、販売費及び一般販管費は、売上高の減少による船頭賃金の減少、レストラン閉店などにより、前期比でそれぞれ11,898千円の減少と12,357千円の減少となりました。

結果として、営業利益は上記の売上減少に伴い前期比6,772千円の減少となり、経常利益は5,210千円の赤字、当期純利益は5,548千円の赤字となりました。

遊覧船事業

当期は、川下り乗船客の目標を32,600人とし、船頭14名、稼働船舶7隻での運航をいたしました。平成27年度から運航を行っているミドルコースを営業の柱とし、短い乗船時間でもおもてなしの心をもって、安全な場所での櫓漕ぎ体験や、船頭との会話を楽しんでもらうと共に、下船後もシャトルバスで安全にお送りし心に残る船旅になるよう引き続き努めました。

しかしながら、複数の社員が退社をし、会社存続の危機に直面する中で、策定した事業再生計画の取組が不十分であったことから、川下り乗船客は、24,381人（対前年79.2%）にとどまりました。

そのような中ではありますが、平成31年1月25日に当社と株式会社シークルーズは、両社の得意分野や経営資源を利用してサービスの向上と事業の推進を図ることを目的として業務提携を締結しました。新たな代表取締役

による新体制のもと、次期集客に向けて営業専任職員を配置し、旅行代理店や海外からのインバウンド観光客をターゲットとした強力な営業活動を展開いたしました。また、経営管理の効率化を図るために経営管理専任職員を配置し、クラウドレジ活用に伴う予約管理業務の効率化と、適時な経営実態を把握するためにクラウド会計の導入に着手いたしました。

コース	客 数 (人)		増減(人): (率)	
	H30	H29		
ミドルコース	24,381	30,778	△6,397	79.2%
ショートコース	0	831	△831	0.0%
計	24,381	31,609	△7,228	77.1%

なお、レストラン「くまがわマルシェ」につきましては、平成30年5月をもちまして閉店しております。

閉店までの当期売上実績としましては、2,578千円(対前年23.8%)となりました。

その他事業

売店物品販売につきましては、川下り乗船客数の減少に伴い、4,476千円(対前年76.8%)という結果になりました。

ラフティングにつきましては、集客目標を1,800人と定め活動を行いました。実績といたしましては利用者1,041人(対前年58.8%)、収入で5,886千円(対前年60.3%)と昨年より実績を下回りました。当社が永年取り組んできた教育旅行のラフティング体験を熊本地震前の水準まで戻すには、まだまだ時間と集客営業努力が必要と感じております。

また、冬場の閑散期における収入確保策である美化請負事業につきましては、今期は前期以上の受注を受けました。実績といたしまして16,511千円(対前年120.3%)という結果となりました。

貸借対照表

平成31年2月28日現在

(単位:円)

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
I 【流動資産】	【 9,217,297 】	I 【流動負債】	【 21,500,172 】
現金及び預金	7,808,296	買掛金	131,163
売掛金	355,200	短期借入金	15,000,000
商品	133,119	未払金	5,680,971
貯蔵品	432,533	未払費用	16,254
立替金	189,749	未払法人税等	338,500
未収還付消費税等	298,400	預り金	333,284
II 【固定資産】	【 125,483,712 】	II 【固定負債】	【 135,213,000 】
1(有形固定資産)	(116,452,279)	長期借入金	135,213,000
建物	83,913,218	負債合計	156,713,172
付属設備	5,745,892	I 【株主資本】	【 △ 22,012,163 】
構築物	51,220,328	1 資本金	[24,000,000]
機械装置	5,610,410	2 利益剰余金	[△ 46,012,163]
車両運搬具	11,916,222	利益準備金	(4,240,000)
工具器具備品	17,468,000	その他利益剰余金	(△ 50,252,163)
船舶	20,175,387	繰越利益剰余金	△ 50,252,163
減価償却累計額	△ 165,643,238		
土地	84,748,678	純資産合計	△ 22,012,163
建設仮勘定	1,297,382		
2(無形固定資産)	(9,031,433)	負債・純資産合計	134,701,009
電話加入権	1,023,905		
借地権	1,257,528		
温泉利用権	6,750,000		
資産合計	134,701,009		

損益計算書

自 平成30年3月 1日
至 平成31年2月28日

(単位:円)

科 目	金 額	
		円
I【営業損益】		
1 (純売上高)		
川 下 り 売 上 高	58,624,455	
売 店 売 上 高	4,476,829	
ラフティング売上高	5,886,100	
美化業務売上高	16,511,900	
レストラン売上高	2,578,501	
売 上 値 引 高	△ 453,483	87,624,302
2 (売上原価)		
商 品 売 上 原 価	3,437,433	
製 品 売 上 原 価	52,686,372	56,123,805
売 上 総 利 益		31,500,497
3 (販売費及び一般管理費)		38,044,883
営 業 利 益		△ 6,544,386
II【営業外損益】		
1 (営業外収益)		
受 取 利 息	46	
写 真 取 扱 手 数 料	647,223	
事業再生支援補助金	3,040,000	
雑 収 入	1,183,256	4,870,525
2 (営業外費用)		
支 払 利 息	2,254,208	
雑 損 失	1,282,231	3,536,439
経 常 利 益		△ 5,210,300
III【法人税等】		
法人税・住民税及び事業税	338,500	338,500
当 期 純 利 益		△ 5,548,800

第 5 8 期

事 業 計 画 書

自 平成 3 1 年 3 月 1 日
至 令和 2 年 2 月 2 9 日

第58期 事業計画書

平成31年1月25日に株式会社シークルーズと業務提携し、新体制となりましたが、経営安定化のため課題解決に向け、事業再生計画を柱に以下の取組に着手、実施してまいります。

- 1 「くま川下り株式会社」から「球磨川くだり株式会社」への社名の変更
- 2 経営理念、経営ビジョン、行動指針の刷新
- 3 「ミドルコース」から「清流コース」への名称の変更
- 4 運航時刻の平日・土日の統一
- 5 子供料金、団体料金の改定
- 6 定休日の導入
- 7 ロゴマークの刷新、水戸岡鋭治氏デザインの新CI（コーポレートアイデンティティ）の制作
- 8 パンフレットの刷新、多言語化（日・英・簡体・繁体）
- 9 WEBサイトの刷新
- 10 じゃらん遊び予約体験のテコ入れ
- 11 舟のリノベーション
- 12 オーニング（舟の雨除けテント）の新調
- 13 最少催行人員の変更【6名→2名】
- 14 若手船頭の社員化
- 15 大手旅行会社商品への掲載（JTB、KNT、日本旅行、ANAなど）
- 16 地元ホテル・旅館とのタイアップの強化及びセット商品の造成
- 17 川開き祭における地元関係者との意見交換会の実施
- 18 変形労働制及びシフト勤務制の導入
- 19 平成31年3月から借入金の元金返済の再開

以上の取組を実現するために、新体制の全役職員が一丸となって、舟運を通じて、訪れる人々に球磨川の素晴らしさと感動を伝え、魅力ある人吉球磨の活性化に貢献し、川と人を大切に、地域の付加価値を最大限に高めることができる企業を目指してまいります。

営業面におきましては、株式会社シークルーズの営業ノウハウを積極的に学び、「球磨川下り」をスリルだけでは無く、伝統や文化を基調とした情緒や優雅さを強調し、船旅本来の魅力と櫓漕ぎ体験などを思い出として記憶に残るようなサービスに心がけ、これまで以上に集客のためのセールス・販売促進に繋げてゆくことを徹底してまいりたいと存じます。また、テレビ番組の制作協力などによる放映や旅行雑誌の記事掲載の機会にも積極的に協力してまいります。特に、中華圏からのインバウンド観光客が増加しておりま

すが、当社は受入体制がまだまだ整わず遅れておりますので早急に対応する必要がございます。また、営業全般において、熊本県観光連盟や人吉市、球磨村との連携はもとより宿泊施設との連携等も欠かすことなく展開してまいります。

ラフティングに関しましては、引き続き熊本県教育旅行受入促進協議会を中心に教育旅行の誘致に努めてまいります。

依然、経営運転資金の調達をはじめ、数多くの課題を抱えておりますが、人吉市からの長期貸付金を御支援いただきましたことにより、会社の経営体力の回復が図れましたことに厚く御礼申し上げます。その上で経営基盤をより強固なものにするために、引き続き年間を通しての収益の確保にも積極的に取り組み、安定した雇用環境を整備することで更なる増収に努め、観光を通して地域の発展に寄与し、球磨川下りを後世に残すべく精一杯尽力致します。

事業再生計画におきましては、計画2年目となります第58期の目標を、川下り乗船客数33,500人としておりますが、上記の取組を完遂することで計画数値を上回る36,000人、ラフティング利用客は1,870人を目標として、全役職員一同力を合わせて精進して参ります。

各関係の皆様におかれましては、引き続き当社の発展のために一層の御支援と御協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

損益計画書

自 平成31年3月 1日
至 令和 2年2月29日

(単位:千円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		千円
I【営業損益】		
1 (純売上高)		
川下り売上高	85,322	
売店売上高	6,000	
ラフティング売上高	10,362	
美化業務売上高	13,720	
売上値引高	△ 992	114,412
2 (売上原価)		
商品売上原価	44,861	
製品売上原価	15,413	60,274
売上総利益		54,138
3 (販売費及び一般管理費)		46,736
営業利益		7,402
II【営業外損益】		
1 (営業外収益)		
受取利息	0	
写真取扱手数料	1,715	
雑収入	1,000	2,715
2 (営業外費用)		
支払利息	2,403	
雑損失	100	2,503
経常利益		7,614
III【法人税等】		
法人税・住民税及び事業税	338	338
当期純利益		7,276